

愛知登文会ニュース 第23号

平成31年4月19日号

1 事業実施報告「登録有形文化財魅力紹介冊子」(2018年度)

2018年度からの新規事業として、様々な種類の登録有形文化財の魅力を多くの方に知ってもらうために愛知県内の登録有形文化財を紹介する冊子を作成しました。

「あいちのたてもものづくり編」

初年度は「あいちのたてもものづくり編」として、愛知の産業をテーマに「窯業」「醸造」「繊維」「機械」「鉄道・電信」の5分野に関連する登録有形文化財を17件取り上げました。建築史家の村瀬氏にご協力いただき、それぞれの建物の歴史や見どころについて、わかりやすくまとめてあります。

この冊子は会員の皆様に配布したほか、愛知、岐阜、三重、静岡、東京、大阪、京都の各図書館に寄贈させていただいています。ぜひお手にとってご覧ください。また、当会ホームページでも公開中です。

来年度は「学び舎編」として、学校を取り上げる予定です。完成をお楽しみにお待ちしております。



▲あいちのたてもものづくり編

2 事業実施報告「登録文化財保存活用シンポジウム」(2018年度)

地域固有の文化遺産について考えるとともに、所有者の方により有益な情報をお届けする場として、全4回のシンポジウムを開催しました。このうち第2回～第4回についてご報告します。

第2回 「文化庁補助制度“美装化事業”を知る」

昨年度より創設された「美しい日本探訪のための文化財建造物魅力向上促進事業（美装化事業）」について、2件の事例紹介を通して理解を深めました。また、文化庁の金井氏にお越しいただきました。青山氏が所有する青山ビルは、外壁の塗装やツタの美装化を行いました。図面作成や業者選定などは青山氏自ら行っており、その経緯や苦労した点などを紹介いただきました。ザイラー氏が所有する「かやぶき音楽堂」は、茅葺屋根の補修を行いました。これまでの保存活用の取り組みとして、かやぶき基金の創設や屋根の大改修について紹介いただくとともに、今後の活用への思いをお話いただきました。

H30.11.13(火)	内容	参加者
13:30～ 16:30	①大阪の事例紹介「美装化事業の流れについて」 講師：青山修司氏（大阪登文会事務局長、青山ビル） ②京都の事例紹介「蘇ったかやぶき音楽堂」 講師：カズコ・ザイラー氏（京都登文会会員、ザイラー家住宅） ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次（愛知登文会会長）	42名 (講師・事務局含む)



▲青山氏による青山ビルの紹介



▲ザイラー氏によるかやぶき音楽堂の紹介



▲意見交換の様子

第3回 「名古屋テレビ塔と久屋大通公園」

名古屋テレビ塔とその周辺の整備について、所有者、建築士、行政のそれぞれの立場からお話しいただきました。所有者の大澤氏からは、タワー先駆者としての誇りや今後の名古屋の将来性について、構造設計を担当する西澤氏からは、文化財的価値を見つける分析手法について、名古屋市職員で栄公共空間担当の今川氏からは、久屋大通公園の整備計画についてお話がありました。意見交換の際には、参加者からより良い整備への期待が寄せられるとともに、講師の方々からは、三者の連携と栄の魅力向上に向けて展望が語られました。

H30.12.5(水)	内容	参加者
14:00～ 17:00	①名古屋人気質と街づくり～時代に先駆けた地域の挑戦が今日を創る～ 講師：大澤和宏氏（名古屋テレビ塔株式会社 取締役社長） ②テレビ塔の文化財的価値を活かした再生・改修計画 講師：西澤崇雄氏（株式会社日建設計 エンジニアリング部門 構造設計部 主管） ③久屋大通公園の再生について 講師：今川雅之氏（名古屋市住宅都市局 リニア関連都心開発部 都心まちづくり課 主査） ④意見交換 コーディネーター：小栗宏次（愛知登文会会長）	46名 (講師・事務局含む)



▲大澤氏による名古屋テレビ塔の紹介



▲西澤氏による改修計画の解説



▲意見交換の様子



名古屋テレビ塔が休業に入りました

2019年1月7日より名古屋テレビ塔は約1年半に渡るリニューアル工事に向けて休業に入りました。リニューアル前の最終営業日である1月6日には消灯式を行い、大村知事・河村市長・名古屋市出身で映画監督の堤幸彦さんが見守る中、テレビ塔の閉館時間に合わせて21時ぴったりには塔体のライティングを消灯しました。

あれから約3ヶ月、現在はテレビ塔から歩いて約10分の東区東桜の仮事務所で事務局の作業をしていますが、テレビ塔の職員だけテレビ塔に行かないというも変な感覚です。また、栄の夜にテレビ塔がライトアップしているのが当たり前だった光景も今は点いていないため、それも変な感覚です。

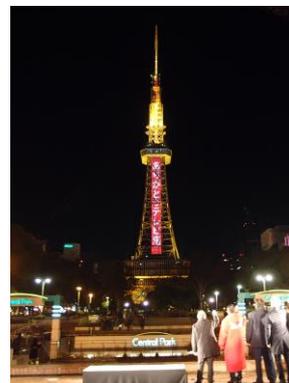
昨年12月にテレビ塔で開催された愛知登文会の保存活用シンポジウムでも多くの参加者から「リニューアルすごく楽しみにしているよ」といった声を多く頂きました。11月に発売された書籍『名古屋テレビ塔クロニクル』も名古屋市内の大型書店だけでなく小さな町の書店でも大々的にPRして頂き、実際に手に取っている方を多く見かけました。

そう考えると、テレビ塔がいかに名古屋のシンボルであり、人々にとって大きな財産であるのかを再認識しました。

愛知登文会事務局 石坂喜和

リニューアル後も登録有形文化財として大切に保存活用をするのももちろんですが、愛知登文会の事務局としても皆さんと一緒に会を盛り上げていきたいですね。

新しくなる名古屋テレビ塔にご期待ください。



▲消灯式の様子



▲消灯された名古屋テレビ塔

写真提供：サカエ経済新聞

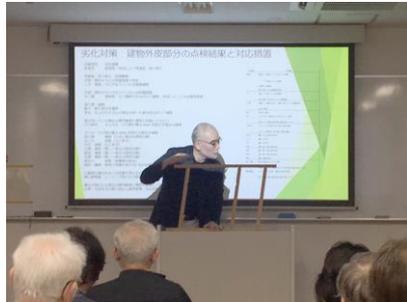
**第4回 「木造建物所有者の方に向けた特別講座！
はじめての人の木造建物の体力測定と健康診断」**

木材科学を専門とする山崎氏からは、木材の性質とその個性について、実際の強度測定の事例を交えてご説明いただきました。構造分野の専門家である寺本氏からは、建物の劣化とその対処法について、点検項目やメンテナンススケジュールなど、誰でも入手可能な資料をもとにご説明いただきました。参加者から「耐震診断で思わしくない結果となり不安」という意見が出ると、講師からは、木材や木造建物の性質は未知な部分もあり必ずしも科学では数値化できないこと、専門家の中でも意見が分かれる分野であることから、自らが感じたり考えたりすることが大切であるというお話がありました。

H31.2.28(木)	内 容	参加者
14:00～ 17:00	①木造建物の「体力測定」～骨組みの強さを知ろう！～ 講師：山崎真理子氏（名古屋大学大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻 准教授） ②木造建物の「健康診断」～劣化について学ぼう！～ 講師：寺本武司氏（てらもと設計室） ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次（愛知登文会会長）	50名 （講師・事務局含む）



▲山崎氏による木材の性質の解説



▲寺本氏による木材の構造の解説



▲意見交換の様子



誕生！木造健康診断チーム！

今年度最後のシンポジウムは、木造建物の「健康状態」について、はじめての人にもわかりやすく解説しようという試みでした。

木造建物といえば日本人が一番慣れ親しまれた材料で出来た建物です。そして、「骨格が木の骨組み」、「筋肉が土壁や筋交い」、「皮膚が外壁」と、まるで人間の身体のように出来ています。

木材研究のスペシャリストで名古屋大学の山崎さんと、耐震補強など構造計画のスペシャリストである私も、熱心に講義を聞いて下さる皆さんのおかげでより強い思いを抱くことが出来ました。

最後の質問コーナーも熱のこもった質問ばかりで、所有者だけでなく、参加者皆さんで建物への思いの深さを共感することが出来て、自分にとっても感慨深いシンポジウムになりました。

大切に使われてきた建物を人間と同じように、耐震性や老朽化などを所有者が自ら健康チェック出来るようになれば、何処かおかしいと思ったらすぐに手当てして重症化するのを防ぐことが出来ます。

ご参加下さった方々は、是非ご自宅や周りの木造建物の健康診断に活用して頂ければ嬉しく思います。

また参加された方々から、「木材」「構造」のスペシャリストだけでなく、シンポジウムにご参加下さった「保存・活用」のスペシャリストの建築士の方々が一同に会したのは何かの縁。登録文化財をはじめ

てらもと設計室 寺本武司

木造についての健康診断が出来るチームを是非実現して欲しいと、熱望されました。

木造の健康状態について所有者の方々の関心の高さを実感したのとともに、この出会いから全国でもトップクラスの木造健康診断チームがここに誕生しました。

もし木造建物で健康診断をご希望の方がいらっしゃれば、愛知登文会にご相談いただければと思います。



▲寺本氏



▲健康診断の様子

写真提供：豊田市の住宅リフォーム株式会社スミカ

4 県外視察報告—愛知登文会独自事業（2018年度）

名張初瀬街道登録有形文化財探訪

あいちヘリテージマネージャー 川口亜稀子

平成30年11月27日、三重登文会「さんとうぶん」の案内にて名張市の初瀬街道へ11名で参加した。京・大和とお伊勢さんを結び初瀬街道は江戸中期から明治初期に最も賑わった街道。現在、街道界隈に11件20棟の登録有形文化財が所在している。

まずは、街道の歴史と名張市の文化財の経緯や特徴など詳細に渡って御紹介頂いた。その後、名張川沿いに建つ清風亭のまむし井でお腹を満たし、鍛冶町から本町通りへと探訪開始。最初は大西会長が営む酒蔵「木屋正酒造」の帳場とお座敷を見学。伊勢志摩サミットで有名となった日本酒を扱う明治22年築の木屋正酒造は、平入り切妻屋根の漆喰塗り、つし2階の窓には虫籠窓が3つ並び、本町通りは呉服屋や表具屋が今でも残っており、往時の繁栄ぶりがうかがえた。

江戸川乱歩の生誕石碑を横切り、まちなか交流館として整備されているやなせ宿の「旧細川邸」を見学。元町通り沿いのランドマーク的な建物の「川地写真館」洋風医院建築の「中井家住宅」商店街沿いは、藍染め屋「保田家住宅」の作業場を見学した後、武家屋敷の名張藤堂家邸跡を通過して、鑄造業の「梅田家住宅」元遊郭「山口家住宅」醤油醸造元「小川家住宅」の主屋と蔵を見学するなど、登録有形文化財11件を制覇した。

まち歩きでは空家が目立つ通りもあるが、文化財建造物の殆どは現役で商売や生活を営んでおり、屋根や外壁を直し建物を維持している。瓦業を営む「さんとうぶん」事務局長が街道と建物を残す為の積極的な活動と、所有者と良好な関係である事が伺える。個人宅を含め特別に視察出来た事をこの場を借りて感謝したい。



▲木屋正酒造の前にて記念撮影



▲梅田家住宅 美装化された主屋と蔵



team折り紙建築「まちなみデザイン賞」受賞

■建築設計 筑清澄

この春、第4回名古屋まちなみデザインセレクションの結果が発表されました。同賞は、名古屋の魅力的な風景やまちなみを形作る建物や、名古屋の魅力を発信している活動を「まちなみデザイン賞」として表彰するものです。今回、愛知登文会にもご協力頂いている「なごや折り紙建築」が「まちなみデザイン賞」に選ばれ、team折り紙建築の仲間である建築史家の村瀬良太さんと愛知商業高校ユネスコクラブの皆さんと一緒に授賞式に臨みました。表彰については、こどもを対象にしたワークショップで折り紙建築を作り、その建物が建てられた歴史的ストーリーを解説と合わせて行うことがより深い理解を促す活動であるとして、地域から名古屋、そして愛知への愛着を深める取り組みである点を、高く評価していただきました。

これまで数多くの国登録有形文化財を折り紙建築にしてきましたが、いつか県内すべての建物を折り紙建築にして、その良さをもっと大勢の人に伝えたいと思っています。愛知登文会の会員の皆さまにも、この取り組みにご協力いただければ嬉しく思います。

今年のゴールデンウィークも、4/19(金)～5/6(月)に東区の文化のみち榎木館でなごや折り紙建築展を開催し、『名古屋テレビ塔クロニクル』に執筆・編集協力した村瀬さんとの対談や、ペーパークラフトを作る「名古屋テレビ塔をつくってみよう!」ワークショップを行います。その様子も改めて皆さまにご紹介出来ればと思っています。



▲team 折り紙建築



▲授賞式にて河村市長と



▲折り紙建築展チラシ

編集後記

今号では、平成30年度の事業について、保存活用シンポジウムを中心に報告させていただきました。保存活用シンポジウムは、名古屋や他県の文化財の動向紹介のほか、美装化事業の制度や木造建物の測定・診断方法について学ぶ機会として開催し、行政や専門家だけでなく所有者自らが学ぶことの大切さを確認しました。

また新しい事業として、魅力紹介冊子を発行しました。数に限りがあるため会員の方にしかお配りできませんが、図書館や当会HPでご覧いただけます。ぜひ周りの方にお勧めいただき、文化財ファンを増やしていけたらと考えております。よろしくお願いたします。

愛知登文会ニュース 第23号

発行日：平成31年4月19日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会

〒461-0005 名古屋市東区東桜二丁目9-34 成田ビル高岳3階
名古屋テレビ塔株式会社内

TEL 052-325-2951 FAX 052-325-2952

E-mail info@aichi-tobunkai.org

HP http://www.aichi-tobunkai.org

Facebook @aichi_tobunkai

Twitter @aichitobunkai

Instagram aichitobunkai